

New Art NEXT 2015

アイ・アム・ア・ペインター

I am a Painter

Chisato Tanaka Solo Exhibition

ニューアート展 NEXT 2015

田中千智展



ごあいさつ

横浜市民ギャラリーは昨年2014年に開館50周年をむかえ、この伊勢山の地に移転してきました。この度、新しい施設に移転して初めて同時代の美術を紹介する展覧会として「ニューアート展NEXT 2015 田中千智展 I am a Painter」を開催します。

横浜市民ギャラリーは1964年に開館し、同年より現代美術の年次展「今日の作家展」を開催してきました。その後2006年からは「ニューアート展」、2011年からは「ニューアート展NEXT」に名称を変えて、活動を継承しています。半世紀にわたる現代美術展の歴史のなかで、数多くのアーティストが横浜市民ギャラリーで作品を発表し、世界へと活動の幅を広げてきました。その流れを受け継ぐ作家として、今年には田中千智を紹介します。

田中千智は1980年福岡県出身の画家です。「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014」(福岡アジア美術館)をはじめとする国内外の展覧会や国際交流事業への参加など活躍の幅を広げる田中は、初期の重要なキャリアを横浜で築きました。かつて違法な飲食店が立ち並んでいた黄金町地区では、横浜市の文化政策の一つとしてアートによるまちづくりが進められています。2008年、その黄金町で田中は2ヶ月間の滞在制作を行い、100人を超える地域住民の肖像画を発表して好評を博しました。

この発表から7年を経て開催する本展は、田中のこれまでの活動のなかで最大規模の個展であり、近年ますます深度を増す作品世界に再び横浜で出会う待望の機会です。

1階では、田中が様々なアーティストやプロジェクトに関わりながら制作した作品を多角的にご紹介します。地下1階では、人や物のはじまりと終わり、誕生から消滅していくまでのイメージを描いた本展のための大型の新作、近作を展示します。また、横浜市民ギャラリー×黄金町連携事業として、10月1日～11月3日に開催される「黄金町バザール」にも田中の作品が登場します。2008年制作の「107人のポートレート」の一部を、21箇所の商店、病院にご協力をいただき再展示します。ぜひ横浜のまちを周遊してお楽しみください。

最後になりましたが、本展のためにご尽力いただいたアーティスト・田中千智氏と、関係機関、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

横浜市民ギャラリー



《はてしない物語》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 130.3 × 388.0cm

はてしない物語

きっかけは一冊の本からです。

変わらない、何か普遍的なものを描きたいと、いつしかそれが私の思いになりました。

今、嘘か本当かわからないような事ばかりが起っています。

ただ、どんな人にも共通していることがあります。

生まれて、はじまる、生きること、死んで、なくなること。

すべてに共通している、人や物のはじまりと終わり、

誕生から消滅していくまでのイメージを、一つの物語のように考え、

今まで私がモチーフとして描いていたものたちと一緒に、

はてしない物語という作品を描きました。

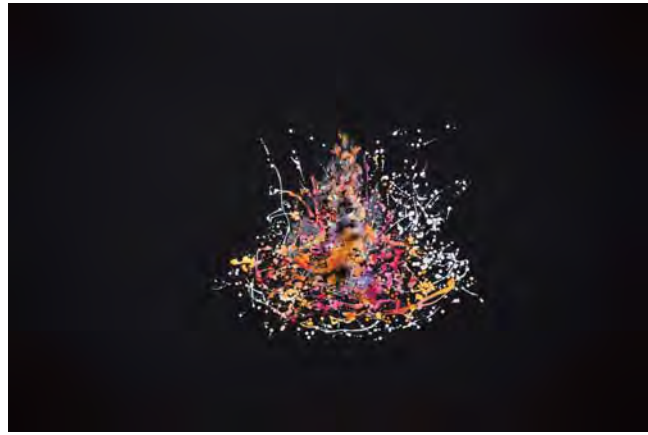
絵の背景は具体的などこかの場所ではなく、

人も具体的な誰かではありません。

人は善い処と悪い処と、常に持ち合わせていて、

人の表裏には、いつも違う物語が背中合わせで続いているように思います。

田中千智



《生まれる》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 130.3 × 194.0cm



《狂った蝶々》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 130.3 × 194.0cm



《BOM》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 130.3 × 194.0cm



《浮かぶ》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 162.0 × 194.0cm



《漂う》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 162.0 × 194.0cm



《廃墟前にて》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 162.0 × 194.0cm



《戦う人》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 162.0 × 194.0cm



《整列する》 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 162.0 × 194.0cm

107人のポートレート



photo: Takashi Arai

田中千智は2008年に開催された初回の「黄金町バザール」のレジデンスアーティストとして、横浜の黄金町で2ヶ月間の滞在制作を行いました。まちの人々に肖像画のモデルになってもらうよう交渉して、100を超えるポートレートを完成させました。その作品は「107人のポートレート」としてまちの商店やスタジオで発表され、好評を博しました。田中と黄金町のまちの人々との交流は今でも続いています。

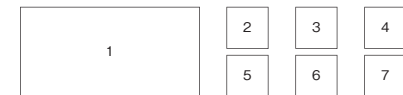
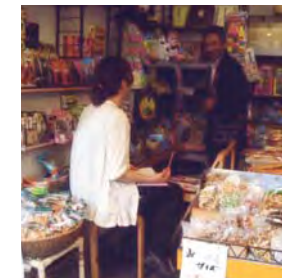
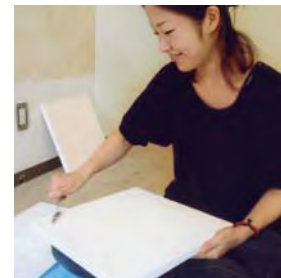
田中千智 讃 山野真悟

東京から若いアーティストが帰ってきた。福岡は狭いので、同じ業種の人たちはすぐに知り合いになる。展示会の機会も順調にめぐって来るが、マーケットがないのでそれで食べていけるわけではない。たいていのアーティストはアルバイトをしながら制作し、作品のことや将来について考える時間が続く。田中千智の場合はちょっと違っていた。外から見ればまったく上に書いたとおりだが、彼女にはどうやら確信らしきものがあった。試行錯誤の果てに、やがて技術とアイデアが一致するときがおとずれ、自在に作品を生み出すときが来るだろうと。

2007年、私は黄金町の展示会の企画を担当することになり、再び横浜と福岡の往復が始まった。地域とアーティストをつなぐシンプルで効果的な方法としてアーティストが地域の人たちのポートレートを描き、もしその人が店をお持ちであれば、会期中

そこに作品を展示してもらうことを考えた。その段階で、私は田中千智がふさわしいと勝手に決めてしまった。彼女はいつも人物を描いていたが、それはポートレートではなかった。現実にいるのかいないのか、あるいは視線の先がこちらを見ているのか見えていないのかよく分からない、そんな女性のイメージをいつも描いていた。だから彼女にとって私のリクエストが彼女の路線にないことは明らかだ。しかしもうひとつ重要なことがあった。このプランでは、地域の人たちに直接語りかけるアーティストが必要だった。そのために田中千智の物怖じしない、落ち着いた態度と語り口が必要だった。

私は福岡に戻り彼女を説得した。ひょっとしたらこれが彼女の転機になるかもしれないという秘かな思いと、企画者としての身勝手な都合をないまぜにして。



1-3 「107人のポートレート」展示風景 2008年 黄金町バザール(神奈川県)
 4 「107人のポートレート」展示風景 2008年 黄金町バザール感謝祭(神奈川県)
 5-6 滞在制作風景 2008年 黄金町バザール(神奈川県)
 7 まちの人と作品 2015年

2008年の黄金町バザールはお祭りだった。その中で田中千智は大きな役割を果たし、また福岡へ戻っていった。

それから彼女の本格的な活動が始まったような気がする。彼女の技術とアイデアが一致するときに、多分おとずれた。私が出会った当初は、断片があって、それぞれ光を放っていたが、全体をまとめる物語がまだなかった。黄金町の試みは直接その物語を生み出すことにつながってはいないが、彼女が描いたポートレートの全体はコミュニティというある複雑なまとまりをぼんやりと指し示したのではないだろうか。

彼女の絵画は今、まるで幻想のコミュニティの中で展開されている、ある連続した物語の一場面のようなのだ。

黄金町以後の彼女の成長については、おそらく私以上にご存知の方が多くいると思う。私はしばらく田中千智の行方を見失っていたので、まるで突然変異のように、いきなり成長を遂げた姿で再会することになった。

ある日伊勢佐木町の有隣堂で目にした本を、ひょっとしたらという思いで開いて見たら、そこに田中千智の名前があった。巡り巡ってここまで来たのかという思いに捉えられた。

山野真悟 Shingo Yamano
1950年福岡県生まれ。1978年よりIAF芸術研究室を主宰、展示会企画等をおこなう。1990年ミュージアム・シティ・プロジェクト事務局長に就任。1990年より隔年で街を使った美術展「ミュージアム・シティ・天神」をプロデュース。「まちとアート」をテーマに、プロジェクトやワークショップ等を多数手掛ける。2005年「横浜トリエンナーレ」キュレーター。2008年より「黄金町バザール」ディレクター、翌2009年黄金町エリアマネジメントセンター事務局長に就任。平成26年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

絵のしごと

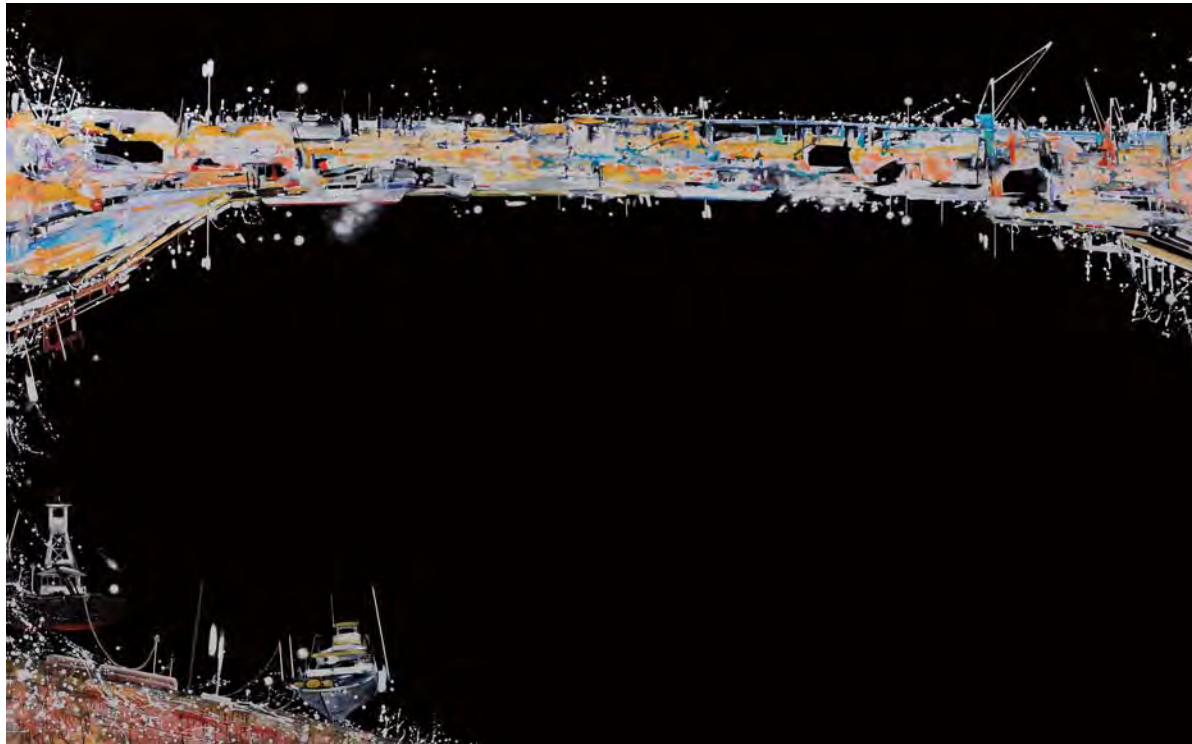
－ 装丁画・宣伝美術

田中千智は小説の装丁原画や、演劇や映画の宣伝美術も多く手掛けています。

既存の作品が使用される場合もあれば、

小説や演劇のイメージから新しい作品が描き下ろされる場合もあります。

異なるジャンルの表現が会うことによって、お互いの作品世界はさらに広がってゆきます。

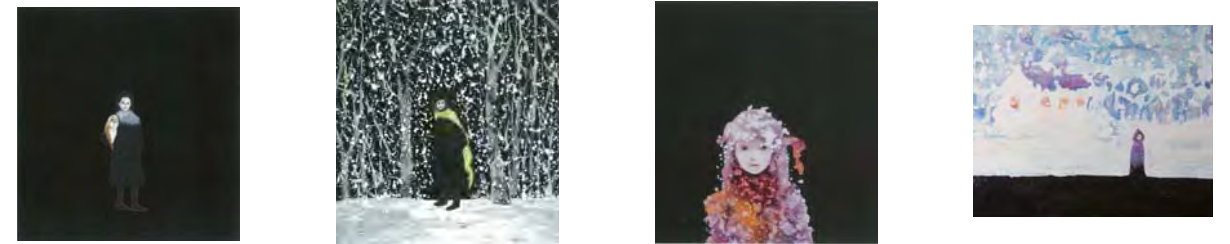


トーキョーノーザンライツフェスティバル

「トーキョーノーザンライツフェスティバル」は2011年から開催されている北欧映画祭です。

映画上映のほかに、北欧の文化を体験・学習できるイベントも行われています。

田中は初回から現在まで毎年この映画祭のメインビジュアルとなるポスター画を手掛けています。



左から 《夜のともだち》(「トーキョーノーザンライツフェスティバル2012」ポスター原画、部分) 2011年 油彩、アクリル、キャンバス 65.2 × 53.0cm
 《森の中へ》(「トーキョーノーザンライツフェスティバル2013」ポスター原画、部分) 2012年 油彩、アクリル、キャンバス 65.2 × 53.0cm
 《無題》(「トーキョーノーザンライツフェスティバル2014」ポスター原画、部分) 2013年 油彩、アクリル、キャンバス 65.2 × 53.0cm
 《白い家》(「トーキョーノーザンライツフェスティバル2015」ポスター原画) 2014年 油彩、アクリル、キャンバス 53.0 × 65.2cm

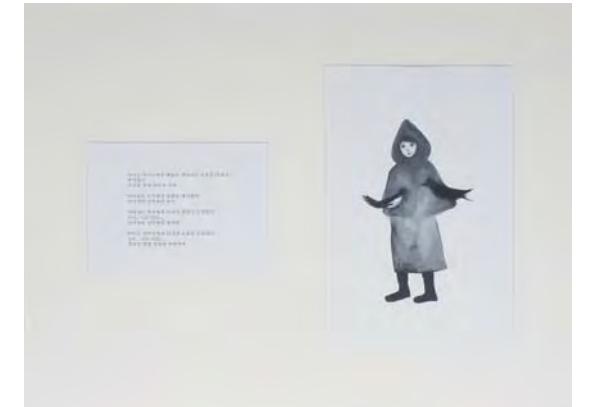
釜山と福岡で収録したインタビューをもとに紡いだ7つの物語

韓国・釜山と福岡の国際交流事業の一環として制作された作品です。

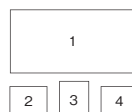
ソウルの振付家チョン・ヨンドゥは創作のために釜山と福岡のまちの人々にインタビューを行いました。

そのインタビューを元にライターの嶋田絵里は7つの物語を、チョン・ヨンドゥは一篇の詩を紡ぎました。

その物語と詩に深く共感した田中はモノクロームの水彩画を描きました。



左 《「この国では、二度泣く」夫婦の物語》 2013年 水彩、アクリル、紙 47.3 × 62.4cm
 右 《「カラスとカササギ」》 2013年 水彩、アクリル、紙 47.3 × 62.4cm



- 1 《きょう、世界のどこか》(沢木耕太郎「波の音が消えるまで 下」装丁原画) 2011年 油彩、アクリル、キャンバス 227.0 × 364.0cm
- 2 《傷痕》(桜庭一樹「傷痕」装丁原画) 2011年 油彩、アクリル、キャンバス 50.0 × 60.6cm
- 3 《魔法の笛》(こんにゃく座「魔法の笛」チラシ原画) 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 53.0 × 41.0cm
- 4 《4人の女の食卓》(劇団HIT!STAGE×14+「血の家」演劇チラシ原画) 2015年 油彩、アクリル、キャンバス 73.0 × 91.0cm

Interview 田中 千智



大学卒業後から黄金町での滞在制作まで

2005年に大学を卒業して福岡に戻ってきたけれど福岡の美術状況が全くわからないまま、最初の個展をやったのが2006年です。見に来る人も少なく、手応えというよりは打ちのめされた感じがありました。

その頃私は藤浩志さん(*1)のアシスタントをしていて、藤さんから「『ギャラリーアトリエ(*2)』に行ったら山野さん(*3)というおじさんがいるからいろいろ作品を見てもらうといいよ」とアドバイスを受けて山野さんを訪ねました。でも制作はあまりうまくいっていませんでした。日々悶々としていて、そんなときに山野さんから黄金町のレジデンスの話をいただきました。

2008年、黄金町の滞在制作で100人を超えるまちの人々の肖像画を制作

最初はそんなにたくさん描く予定ではなかったと思うんです。その頃あまり絵に自信がなかったから、とりあえず下手くそな絵でも量があればなんとかかたちになるんじゃないかという気持ちで、少しずつ増えていったんです。最初の滞在の数週間は、炎天下のなかまちをずっと歩いて、まちの人に肖像画のモデルになってもらうために、「こういうプロジェクトなので協力してもらえませんか」という話を納得してもらわないといけなくて。でもみなさんすごく警戒していて、「お金をとられるんじゃないか」とか不安そうな顔でした。自分のやりたいことを人に話して、それを理解してもらったり、そこから発展させたりという経験がすごく勉強になりました。何回か話して口説き落とすことを経験して、1回断られても平気になりました。

漆黒の画面

黄金町にレジデンスに行く前に、黒で背景を塗って途中まで描いていた絵があったんです。そのときに自分の絵とかコンセプトが全く出てこなくて悩んでいて、でも絵を描きたい衝動はあって悶々としていたんです。けれど、何もないなら何もない状況を描いたらいいんじゃないかと思い、地平線の上に人が立っていて背景は真っ黒というシンプルな絵を描きました。黒い背景は、アクリル絵の具を何回か重ねると筆跡が見えなくなってマットになり、油絵との対比によってすごくきれに見えるので、その段階にいくまで塗り重ねると決めています。少ないときは2〜3回、多いときは15回塗り重ねています。

絵のなかに描かれる人物

なるべく特定できないようなあいまいな顔で、誰にでも投影できるし、誰でもないし、見た人が誰かに似ていると言えばそれはそれでよいという気持ちで描いています。絵のなかの人の顔を平均的な笑っても怒ってもいないくらいにしておくどっちにも見えるというか、そういう想像上の余白を意識して描いています。

新作《はてしない物語》について

ずっと地平線をテーマにしていたので、大きな空間に地平線の絵が並んで、見る人がすぽんと絵の中に入りこめるような空間をつくりたいと思って今回の新作を描きました。誕生から消滅までの、生まれてから死んでいくまでの誰もが経験する出来事を描いています。今と昔の間に起こった大きな事件や地震などの出来事を経て、今ここに自分がいるということ

意識して連作をつくりました。恐ろしいことが次から次へと起こるし、でもそれをなんとか乗り越えて生きてきて、今いる人につながっているというのはすごいなと思っています。そういうことを考えると今の自分が不安なこと消えて、気持ちが落ち着きます。父が大事にしていた『世界不思議物語』という古い本があって、中身はノストラダムスとか地震の起こり方とかでたらしめな話もあるんですけどちょっとおもしろくて。そういうものと現実とを混ぜて創作しています。三美神やアダムとイヴ、映画の一場面なども引用して、現実なのか嘘の世界なのかあいまいにしようと思いました。

自分の作品と、依頼されて描く絵との違い

描く行為自体にあまり違いはないんですが、依頼があったときにはその人がどんなものを描いてほしいのか、どういう人に見てもらえるのか、相手が希望していることを汲み取りたいという意識と、相手の期待を上回って喜ばせたいという気持ちがあります。自分の考えたものを描くときより、依頼を受けたときの方が少し楽な気持ちはあります。何もないところから自分でつくりだすときはすごく悩むし、「どうかな」という気持ちで発表することもあります。でも今回の新作はそういう悩みが一周回ってどうでもよくなって吹っ切れたというか、誰の意見も必要ないかなというところまでいけて、すごく爽快地に描けました。新しい境地というか、初めて経験する不思議な気持ちでした。強くなったのかな。楽しめるようになったというか。

異なるジャンルの作家との制作や国際交流事業など、様々な人々と関わるプロジェクトから得たこと

プロジェクトになると、絵が背景に使われるとか、挿絵になるとか、脇役になることがあるんですけど、そういうのを素直に受け入れられるようになりました。こういうときはここでこう絵が使われたらダンスがよりおもしろく見えるとか、演劇のチラシに使ってもらうとか、脇役的な存在のときと、自分の個展で絵が主役のときと、いろんな状況を受け入れていくと、相手次第で絵がかたちを変えて違うものになる、そのことに気がつきました。受け入れる許容範囲がどんどん広がっていったんです。

「I am a Painter」という展覧会タイトルに込めた思い

いろいろなプロジェクトや人と関わることをやってきて、もう一回新しい気持ちで「私は画家です」というところをやっていききたいという思いを込めて、タイトルをつけました。

2015年7月6日 田中千智アトリエにて
聞き手:森 未祈(横浜市民ギャラリー学芸担当)

*1 藤浩志(ふじ・ひろし)=美術家。福岡県在住。対話と地域実験という手法を用い、地域に創造的な活動を作り出す。
*2 ギャラリーアトリエ=福岡を拠点とした展示スペース。現在は福岡都市圏を中心に全国各地やアジアの文化芸術情報を収集、発信する施設となっている。
*3 山野真悟(やまの・しんご)

作品名	制作年	技法材料	サイズ (cm)	所属
きょう、世界のどこか（沢木耕太郎『波の音が消えるまで 下』装丁原画）	2011	油彩、アクリル、キャンバス	227.0 × 364.0	個人蔵
天使エスメラルダ（ドン・デリーロ『天使エスメラルダ 9つの物語』装丁原画）	2013	油彩、アクリル、キャンバス	80.3 × 130.3	個人蔵
静かな日（李龍徳『死にたくなったら電話して』装丁原画）	2011	油彩、アクリル、キャンバス	72.3 × 50.0	個人蔵
傷痕（桜庭一樹『傷痕』装丁原画）	2011	油彩、アクリル、キャンバス	50.0 × 60.6	個人蔵
いつかのために（ブックオカ2014カバー原画）	2014	油彩、アクリル、キャンバス	27.3 × 45.5	個人蔵
かくれんぼ（ブックオカ2014カバー原画）	2014	油彩、アクリル、キャンバス	27.3 × 45.5	個人蔵
4人の女の食卓（劇団HIT!STAGE×14+『血の家』演劇チラシ原画）	2015	油彩、アクリル、キャンバス	73.0 × 91.0	個人蔵
魔法の笛（こんにやく座『魔法の笛』チラシ原画）	2015	油彩、アクリル、キャンバス	53.0 × 41.0	個人蔵
世界は劇場（こんにやく座合唱CD『世界は劇場』原画）	2015	油彩、アクリル、キャンバス	30.5 × 30.0	個人蔵
祭りのあと（FISH KYOKOプロジェクト）	2013	油彩、アクリル、キャンバス	53.0 × 65.2	個人蔵
祈り（映画『Buddhist - 今を生きようとする人たち -』チラシ原画）	2015	油彩、アクリル、キャンバス	38.0 × 45.5	個人蔵
ケモノたち	2014	油彩、アクリル、キャンバス	31.8 × 40.9	個人蔵
ピアノをひく人	2015	油彩、アクリル、キャンバス	38.0 × 45.5	作家蔵
生まれ変わった人	2015	油彩、アクリル、キャンバス	45.5 × 27.3	作家蔵
無題（「トーキョーノーザンライツフェスティバル2011」ポスター原画）	2010	油彩、アクリル、キャンバス	46.0 × 38.0	個人蔵
夜のともだち（「トーキョーノーザンライツフェスティバル2012」ポスター原画）	2011	油彩、アクリル、キャンバス	67.0 × 55.0	個人蔵
森の中へ（「トーキョーノーザンライツフェスティバル2013」ポスター原画）	2012	油彩、アクリル、キャンバス	65.5 × 53.0	個人蔵
無題（「トーキョーノーザンライツフェスティバル2014」ポスター原画）	2013	油彩、アクリル、キャンバス	65.0 × 53.0	個人蔵
白い家（「トーキョーノーザンライツフェスティバル2015」ポスター原画）	2014	油彩、アクリル、キャンバス	53.0 × 65.2	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	27.5 × 27.5	作家蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	27.5 × 22.0	作家蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	45.5 × 38.0	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	38.0 × 45.5	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	24.2 × 33.3	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	33.3 × 24.2	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	27.3 × 22.0	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	33.3 × 24.2	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	33.3 × 24.2	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	22.0 × 16.0	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	33.3 × 24.2	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	27.3 × 22.0	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	41.0 × 41.0	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	22.0 × 22.0	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	27.3 × 27.3	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	27.3 × 22.0	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	24.2 × 33.3	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	45.5 × 38.0	個人蔵
107人のポートレート	2008	油彩、キャンバス	33.3 × 24.2	個人蔵
「アボジとお寿司」市場のハルモニのひとりごと	2013	水彩、アクリル、紙	47.3 × 62.4	作家蔵
「セピア色の写真」男の細胞	2013	水彩、アクリル、紙	47.3 × 62.4	作家蔵
「一番好きな場所」司書 の精神	2013	水彩、アクリル、紙	47.3 × 62.4	作家蔵
「影島の潜女は済州島から来る」影島 潜女(海女)のひとりごと	2013	水彩、アクリル、紙	47.3 × 62.4	作家蔵
「七〇年代の若者は、」船長の夢	2013	水彩、アクリル、紙	47.3 × 62.4	作家蔵
「五十年後の世界」学生のおしゃべり	2013	水彩、アクリル、紙	47.3 × 62.4	作家蔵
「この国では、二度泣く」夫婦の物語	2013	水彩、アクリル、紙	47.3 × 62.4	作家蔵
「カラスとカササギ」	2013	水彩、アクリル、紙	47.3 × 62.4	作家蔵
天国のような地獄	2014	油彩、アクリル、キャンバス	248.5 × 333.3	作家蔵
意識の旅	2014	油彩、アクリル、キャンバス	218.2 × 291.0	作家蔵
人と人	2015	油彩、アクリル、キャンバス	181.8 × 227.3	作家蔵
表と裏	2015	油彩、アクリル、キャンバス	181.8 × 227.3	作家蔵
はてしない物語	2015	油彩、アクリル、キャンバス	130.3 × 388.0	作家蔵
眠る人	2015	油彩、アクリル、キャンバス	130.3 × 194.0	作家蔵
うまれる	2015	油彩、アクリル、キャンバス	130.3 × 194.0	作家蔵
BOM	2015	油彩、アクリル、キャンバス	130.3 × 194.0	作家蔵
ノスタルジー	2015	油彩、アクリル、キャンバス	130.3 × 194.0	作家蔵
狂った蝶々	2015	油彩、アクリル、キャンバス	130.3 × 194.0	作家蔵
廃墟前にて	2015	油彩、アクリル、キャンバス	162.0 × 194.0	作家蔵
戦う人	2015	油彩、アクリル、キャンバス	162.0 × 194.0	作家蔵
浮かぶ	2015	油彩、アクリル、キャンバス	162.0 × 194.0	作家蔵
漂う	2015	油彩、アクリル、キャンバス	162.0 × 194.0	作家蔵
整列する	2015	油彩、アクリル、キャンバス	162.0 × 194.0	作家蔵
メモ	2015	鉛筆、ペン、紙	各10.0 × 15.0	作家蔵

田中千智の作品「静かな日」

この展覧会を開催するにあたり、多大なご協力をいただきました次の個人、関係機関に深く感謝申し上げます。(敬称略)

アサヒビール株式会社
株式会社資生堂
小林画廊
SPOT frame works
ターナー色彩株式会社
ニューオータニイン横浜
認定特定非営利活動法人
黄金町エリアマネジメントセンター
村越画廊

イセザキ書房
磯部住宅土地株式会社
株式会社佐野屋本店
株式会社永野野節店
株式会社浜屋商店
小林紙工株式会社
坂の上のそば屋 司
シネマ・ジャック&ベティ
柴垣理容院
スリーエフ日ノ出町駅前店
第一亭
竹内化成株式会社
FOOT PRINT
松田クリニック
有限会社和泉屋
有限会社清水経師店
有限会社島保
有限会社ミツワグリル
遊膳グレビー
らーめん たつ屋
リフォームショップ成岡
レストラン シャルドネ

麻生 和子
雨宮 真由美
新井 卓
飯島 モトハル
飯田 善彦
一ノ瀬 成和
大竹 悦子
大堀 剛
国本 泰英
小林 将利
齋藤 一樹
桜井 美穂子
佐野 誠
佐脇 三乃里
サンライズの主人

鳴田 絵里
杉崎 由樹
鈴木 伸治
住吉 國男
立石 沙織
谷口 安利
チョン・ヨンドゥ
中内 麻里
中澤 秋子
仲原 正治
西村 浩幸
林 正樹
茨田 楨之
平野 真弓
藤本 光治
舞 美代子
宮本 初音
森田 加奈子
矢部 博史
山野 真悟
山野 玲

田中 千智

Chisato Tanaka

田中千智の作品「静かな日」

1980年福岡県出身。2005年多摩美術大学美術学部絵画学科油画科卒業。2008年「黄金町バザール」(神奈川)で2ヶ月間の滞在制作を行う。2012年「VOCA展2012―新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）、2014年「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014」福岡アジア美術館（福岡）等展覧会多数。2013年「損保ジャパン美術賞展FACE2013」優秀賞受賞。現在、福岡県在住。

New Art NEXT 2015

アイ・アム・ア・ペインター

I am a Painter

Chisato Tanaka Solo Exhibition

田中千智の作品「静かな日」

ニューアート展 NEXT 2015

田中千智展

2015年10月2日〔金〕 ～ 10月18日〔日〕 10:00～18:00(入場は17:30まで)

横浜市民ギャラリー 展示室1, B1 / 入場無料 会期中無休

アーティスト トーク	林 正樹ピアノライブ
10月3日 〔土〕 15:30～	夜のピアノと夜の絵たち
会場: 横浜市民ギャラリー 4階アトリエ	10月4日 〔日〕 19:00開演 (18:30開場)
出演: 田中 千智	会場: 横浜市民ギャラリー 展示室B1
ゲスト: 山野 真悟(黄金町バザール ディレクター)	出演: 林 正樹
担当学芸員によるギャラリートーク	林 正樹 <i>Masaki Hayashi</i>
10月11日 〔日〕 、17日 〔土〕 14:00～	1978年東京生まれ。1997年にプロ活動をスタート。現在は自作曲を中心に演奏するソロピアノでの活動や、生音でのアンサンブルにこだわった「間を奏でる」、田中信正とのピアノ連弾「のぶまさき」などの自己プロジェクトの他に多数のユニットに在籍中。NHK「ハートネットTV」「ドキュメント20min」「ドキュメンタリー-WAVE」などのテーマ音楽も担当する。
会場: 横浜市民ギャラリー 展示室1	

主催: 横浜市民ギャラリー（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
協賛: 株式会社資生堂、ニューオータニイン横浜、アサヒビール株式会社
協力: 認定特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、ターナー色彩株式会社、小林画廊、村越画廊
後援: 横浜市文化観光局、神奈川新聞社、tvk、ラジオ日本、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会
横浜市民ギャラリー × 黄金町連携事業

学芸担当: 森 未祈、大塚 真弓、齋藤 里紗
デザイン: 北川 正（Kitagawa Design Office）
印刷: 山陽印刷株式会社
映像編集: 橋本 和宜

編集・発行: 横浜市民ギャラリー（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
〒220-0031 横浜市区宮崎町26番地1
TEL: 045-315-2828
FAX: 045-315-3033
http://ycag.yafjp.org/

©Yokohama Civic Art Gallery 2015

〔表紙の作品〕 《ケモノたち》 2014年 油彩、アクリル、キャンバス 31.8 × 40.9cm

